

AR技術など用い教室

筑波大学附属聴覚特別支援学校（千葉県市川市、伊藤僚幸校長）とNITT東日本千葉事業部（千葉県千葉市、井上曉彦）が、県白井市、鈴木修校長）でも6年生を対象に同様な教室が開かれた。

筑波大学附属聴覚特別支援学校では、これからの災害シーズンに備え、本当に

要としている。

そうした考えのもと、2校とも災害の教訓や危険性の伝承を幼少期から行うことで、防災教育の充実につなげている。

こうした取り組みを支援するため、NIT東日本は、これまで培ってきた防災・減災への取り組みやノウハウをベースにICTやDXを活用し、災害を疑似体験する授業を行った。

当日、児童たちは防災についての講義を受講したり、AR技術などによる仮想映像を用いて浸水時の移動を疑似体験するなどした。これにより、児童たちは正しい防災・減災知識を身に付けながら自助の意識の強化を図った。



ARゴーグルを使って体育館が浸水した状態を疑似体験する児童たち
(筑波大学附属聴覚特別支援学校)

千葉事業部長）は6月12日、同校の5・6年生を対象に「体験型防災教室」を開催した。6月20日には、白井市立第二小学校（千葉

役立つ防災知識を楽しく学んで身に付けることに取り組んでいる。白井市教育委員会（井上功教育長）と白井第二小は、市の地域防災

こうした取り組みを支援するため、NIT東日本は、これまで培ってきた防災・減災への取り組みやノウハウをベースにICTや

DXを活用し、災害を疑似体験する授業を行った。

計画に基づき、市民一人ひとりが「自らの命は自ら守る」自助と、「自分たちの地域は地域のみんなで守る」共助の重要性を認識することが重

『通信興業新聞』2024年6月24日付＜地域面＞